Ⅳ-8 沖縄

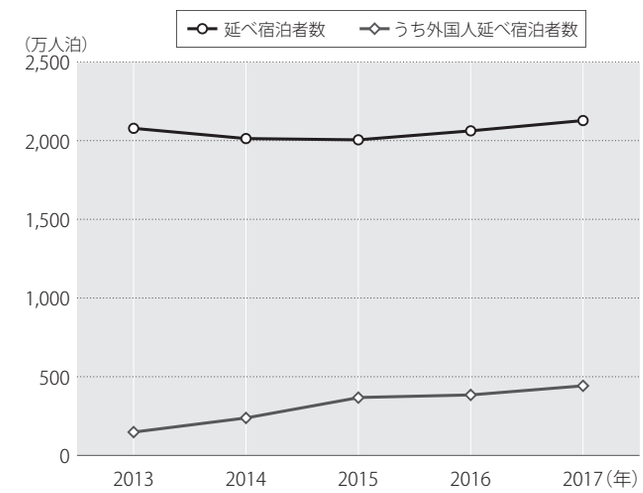
入域観光客数は939.6万人(暦年)で過去最多
同年のハワイの観光客数を初めて上回る

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると2017年1～12月の沖縄の延べ宿泊者数は2,169万人泊となり、前年比5.1%増(106万人泊増)となった(図Ⅳ-8-1)。

一方、外国人延べ宿泊者数は462万人泊となり、前年比19.8%増(74万人泊増)で、昨年の4.7%増(17万人泊増)から再び2桁の増加率を回復した。

図Ⅳ-8-1 延べ宿泊者数の推移(沖縄)



	2013	2014	2015	2016	2017
延べ宿泊者数	2,079	2,014	2,006	2,063	2,169
うち外国人延べ宿泊者数	149	239	368	386	462

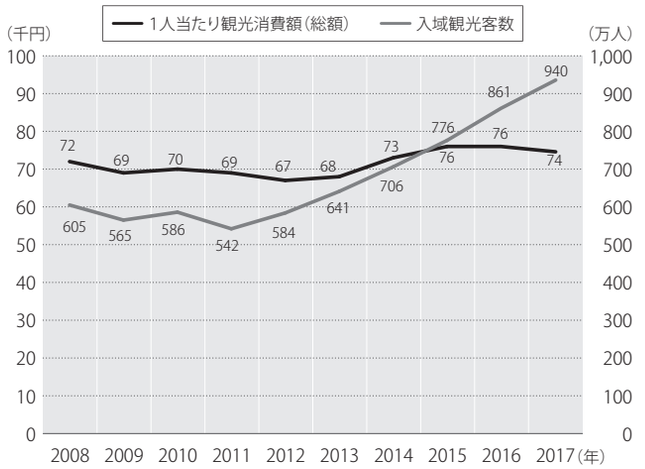
単位:万人泊
資料:観光庁「平成29年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

沖縄県が推計している「入域観光客数(含ビジネス客)」は、2017年(暦年)には939万6千人(78.3万人増)で過去最多となったが、3年連続で10%以上の伸びを示していた前年比増加率は9.1%に留まった(図Ⅳ-8-2)。

入域観光客のうち、国内客は685万4千人(前年比4.9%増)、外国人客は254万2千人(同22.1%増)だった(図Ⅳ-8-3)。外国人客比率は拡大し続けており、2017年は27.1%と観光客全体の3割弱を占めるまでになった。国・地域別にみると、台湾78万7千人(前年比29.6%増)、韓国52万3千人(同21.3%増)、中国50万4千人(同12.2%増)、香港25万7千人(同26.2%増)、そのほか47万1千人(同26.2%増)で、台湾の伸び率が最も高かった。

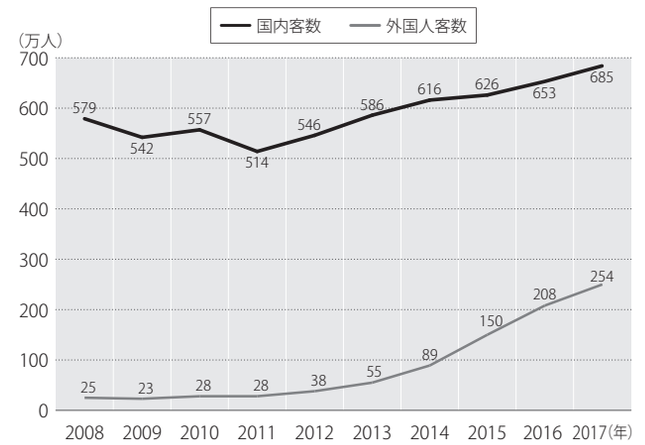
離島の動向をみると、沖縄県八重山事務所が公表している八重山地域の入域観光客数は、2017年(暦年)が138万7千人(前年比11.1%増)、宮古島市が公表している宮古島の入域観光客数も93万2千人となり、前年比34.6%増といずれも好調に推移した。

図Ⅳ-8-2 入域観光客数と1人当たり観光消費額の推移



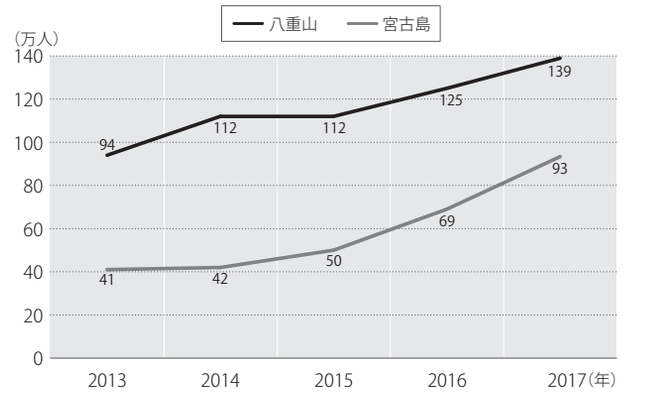
資料:沖縄県「観光統計実態調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図Ⅳ-8-3 国内客数と外国人客数の推移



資料:「沖縄県入域観光客統計概況」をもとに(公財)日本交通公社作成

図Ⅳ-8-4 八重山地域及び宮古島の入域観光客数の推移



資料:沖縄県「八重山入域観光客数統計概況(推計)」及び宮古島市「宮古の入域観光客数」をもとに(公財)日本交通公社作成

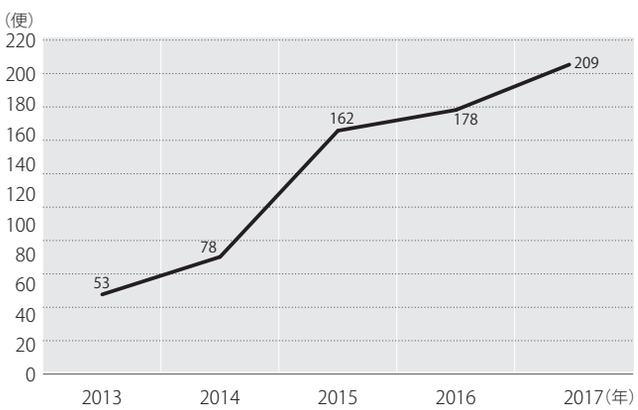
(2) 観光地の主要な動き

外国人客の増加に伴う入域観光客数の拡大を受けて、2017年も国際線の増便、宿泊施設及び商業施設などのオープンが相次いだ。

●国際線の増便

調査月が異なるため単純比較はできないものの、2017年6月1日現在の那覇空港及び新石垣空港における国際線の週あたりの合計便数は209便で、前年（2016年8月1日現在）に比べ17.4%増（31便増）となった（図Ⅳ-8-5）。主な内訳は、台北67便（提供座席数14,692席、石垣便を含む）、ソウル49便（同10,696席）、香港29便（同7,621席、石垣便を含む）、上海21便（同3,276席）、バンコク7便（同1,260席）などとなっている。

図Ⅳ-8-5 那覇空港及び新石垣空港（南ぬ島石垣空港）における国際線（直行便）の合計便数（週あたり）の推移



資料：沖縄県「観光要覧」をもとに（公財）日本交通公社作成
※2014年までは4/1、2015年は9/1、2016年は8/1、2017年は6/1現在の便数を掲載。

●宿泊施設の開業

2017年から2018年にかけてオープンした主な宿泊施設（名称変更などによるリニューアルオープンを含む）を表Ⅳ-8-1に示す。

外国人観光客をはじめとした宿泊需要の高まりを受けて、那覇市内に「HOTEL AZAT（旧ベストウェスタンホテル那覇INN）」（2017年4月）を始め、「コンドミニオマキシ アネッソ」（同年4月）、「JR九州ホテル ブラッサム那覇」（同年6月）、「RJホテル那覇（リオープン）」（同年8月）、「ホテルアクアチッタナハ by WBF」（同年10月）、「ティサージホテル那覇」（2018年4月）など、コンドミニアムタイプも含めたシティ・ビジネスホテルの開業が相次いだ。また、2018年5月にはカプセルホテルタイプで188室（通常客室タイプも含む）を擁する「ワイズキャビン&ホテル那覇国際通り」が国際通り沿いに開業した。

一方、那覇市以外の本島中北部・南部、そして離島地域においても、平屋コテージ14棟を含む総客室数100室のリゾートホテル「グランヴィリオリゾート 石垣島ヴィラガーデン」、大型リゾート シギラリゾート内に新設された「ホテルシーブリーズカジュアル」など、さまざまな形態・価格帯の宿泊施設が供給された。

表Ⅳ-8-1 2017年から2018年にかけてオープンした主な宿泊施設

年 月	宿泊施設名	所在地	室数
2017年1月	かりゆしコンドミニアムリゾート金武ヤカシーサイド	金武町	18戸
3月	ホテルWBF石垣島	石垣市	60室
4月	HOTEL AZAT（旧ベストウェスタンホテル那覇INN）	那覇市	172室
4月	グランヴィリオリゾート石垣島ヴィラガーデン	石垣市	100室
4月	ホテルニラカナイ小浜島（リオープン）	竹富町	102室
4月	ホテルアラマンダ小浜島（リオープン）	竹富町	60室
4月	ザ・ペリドット　スマートホテルタンチャワード	恩納村	22室
4月	アートホテル石垣島（リオープン）	石垣市	236室
4月	コンドミニオマキシ　アネッソ	那覇市	21室
5月	オクマ プライベートビーチ＆リゾート（リオープン）	国頭村	184室
6月	JR九州ホテル ブラッサム那覇	那覇市	218室
7月	ユインチホテル南城 アネックス・ビル	南城市	94室
7月	インギャーコーラルヴィレッジ	宮古島市	72室
7月	かねひで喜瀬ビーチパレス（リオープン）	名護市	152室
8月	ホテルコザ	沖縄市	80室
8月	RJホテル那覇（リオープン）	那覇市	60室
10月	ホテルアクアチッタナハby WBF	那覇市	231室
11月	ホテルシーブリーズカジュアル	宮古島市	170室
2018年1月	HOTEL LOCUS	宮古島市	100室
1月	リンケンズホテル（リオープン）	北谷町	25室
3月	HOTEL Mr.KINJO IN MINAMIUEBARU	中城村	24室
4月	ティサージホテル那覇	那覇市	132室
5月	ワイズキャビン&ホテル那覇国際通り	那覇市	188室
6月	ラ・ジェント・ホテル沖縄北谷	北谷町	139室
6月	ダブルツリー by ヒルトン沖縄北谷リゾート	北谷町	160室
7月	ザ・ひらまつホテルズ&リゾーツ宜野座	宜野座村	18室
7月	HOTEL Mr.KINJO IN FUTENMA	宜野湾市	21室

資料：新聞記事やホームページなどをもとに（公財）日本交通公社作成

●観光関連施設の開業

2017年から2018年にかけてオープンした主な商業施設・アミューズメント施設などの観光関連施設を表Ⅳ-8-2に示す。

観光客を主対象とした施設ではないが、2017年3月、「沖縄空手会館」がオープンしている。同会館は、沖縄伝統空手を独自の文化遺産として保存・継承のうえ発展させ、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として整備されたもので、空手道場のほか展示施設やショップ、飲食店も設置されており、国内外の空手関係者が集う場所として、また空手の経験のない観光客も含めた集客・交流のための施設として期待されている。

また、同年10月には、長い間、県民の台所として親しまれてきた農連中央市場に代わる施設として「のうれんプラザ」がオープンした。老朽化した農連市場の建物の解体が決まり、その代替施設として3階建ての建物が新設された。同施設内には、1階、2階に120店舗以上の小売店や飲食店が入り、農連市場に入居していたテナントの一部もそのまま営業を続けて

いる。また、3階には駐車場が入る。施設自体は24時間開いており、早朝にはかつての市場の雰囲気をそのまま感じることができる。

表Ⅳ-8-2 2017年から2018年にかけてオープンした主な商業施設・アミューズメント施設

年月	施設名	所在地	概要
2017年1月	ザ・ギノザリゾート「美らの教会」	宜野座村	本島東海岸に位置する沖縄最大級を誇るウェディング施設。ガラス張りが特徴的なチャペルに、パーティールーム、フォトスタジオなどを併設。
2017年2月	PANZA Okinawa（シェラトン沖縄サンマリーナリゾート内）	恩納村	全長250mのジップライン「MegaZIP」と高さ13mから地上へダイブする「GoFALL」が楽しめる施設。宿泊者以外も利用可能。
2017年3月	沖縄空手会館	豊見城市	4面の競技スペースを確保できる道場施設、空手の歴史を学べる展示施設のほか、レストランやグッズ販売ショップ等を備えた空手に特化した施設。
2017年4月	JTAドーム宮古島	宮古島市	宮古島にオープンした大型イベントホール。全天候に対応するドーム型で、スポーツイベントのほか、音楽イベント等にも対応が可能。
2017年4月	730court	石垣市	ユーグレナモールに隣接。石垣港離島ターミナルから徒歩3分。飲食店や土産品店などが出店する複合型商業施設。
2017年5月	RESORT MAGIC NAHA（波の上うみそら公園内）	那覇市	波の上うみそら公園内にオープンしたバーベキュー場。手ぶらでバーベキューを楽しむことができる。
2017年6月	ISLAND MAGIC SENAGAJIMA	豊見城市	瀬長島のホテル、温浴施設に近接してオープンしたグランピングとバーベキューが楽しめる施設。キャンピングカーでの宿泊も可能。
2017年7月	アクロスプラザ古島駅前	那覇市	ゆいレール古島駅前にオープンした複合商業施設。スーパーマーケット「古島マルシェ」を始め、飲食店や保育園等が入る。
2017年10月	のうれんプラザ	那覇市	農連市場に代わる施設として新たにオープンした大型商業施設。市場の雰囲気を残した施設内に小売店や飲食店が100以上入る。
2018年2月	グラン・ブルーチャペル・カヌチャベイ	名護市	カヌチャリゾート内に新設されたウェディング施設。ガラス張りのチャペルからは海を一望することができる。
2018年3月	ABLOうるま	うるま市	うるま市にオープンした複合商業施設。総敷地面積4万㎡にスーパーマーケット、レストラン、アパレル、DIYショップ等が入る。

資料：新聞記事やホームページなどをもとに（公財）日本交通公社作成

（3）2017年におけるハワイとの主要指標の比較

2017年における沖縄県の入域観光客数は同年のハワイにおける938万3千人を初めて上回る939万6千人となり、2018年における1,000万人超えも確実な状況となっている。

一方で、入域観光客数以外の主要指標についてハワイと比較してみると、平均滞在日数は沖縄県が3.65日に対してハワイは8.98日、観光収入は沖縄県が6,948億円に対してハワイは1兆8,790億円、滞在中の1人当たり消費額は沖縄県が73,945円に対してハワイが200,845円と、沖縄県はハワイには大きく及ばない状況にある。滞在中の1人・1日当たりの消費額においては、ややハワイが上回るもののいずれも約2万円とそれほど差が大きくないことから、滞在日数の差が1人当たり消費額、ひいては観光収入の大きな差につながっていることが分かる。

これまで堅調に入域観光客数を伸ばしてきた沖縄県だが、滞在日数及び消費額については長年伸び悩み、県が観光振興基本計画で掲げる目標値も現状の値の推移のままでは達成が難しい状況にある。今後は、目標として掲げる「世界水準の観光リゾート地」の形成をさらに進めることで、滞在型の観光地にシフトすることができるかどうかが、入域観光客数以外の指標でもハワイに近づくことができるかにかかっている。

（中島泰）

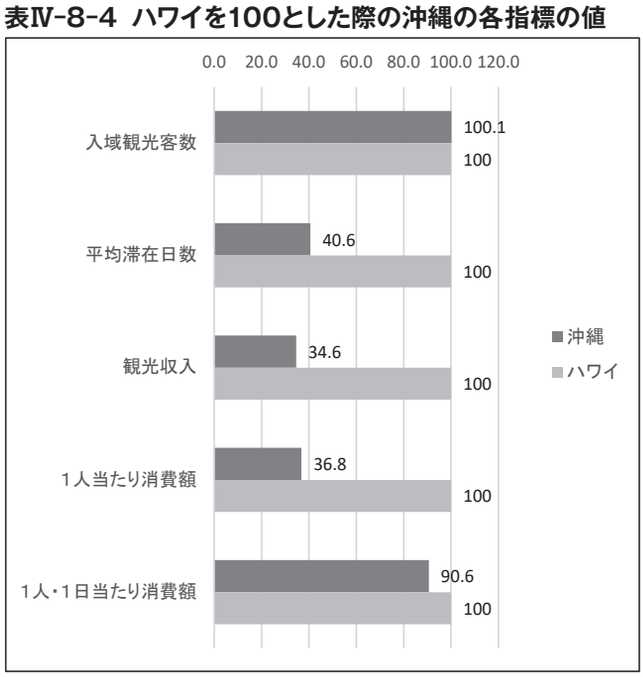
表Ⅳ-8-3 2017年における沖縄県とハワイ州の主要指標比較

	沖縄	ハワイ
入域観光客数	939.6万人	938万3千人
平均滞在日数	3.65日	8.98日
観光収入	6,948億円	1兆8,790億円（167億8千万ドル）
1人当たり消費額	73,945円	200,845円（1793.3ドル）
1人・1日当たり消費額	20,259円	22,366円（199.7ドル）

1$=112円

資料：沖縄県及びHAWAII TOURISM AUTHORITY公表資料をもとに（公財）日本交通公社作成

表Ⅳ-8-4 ハワイを100とした際の沖縄の各指標の値



資料：沖縄県及びHAWAII TOURISM AUTHORITY公表資料をもとに（公財）日本交通公社作成